

吹中生の底力

校長 二瓶 亮

先月は様々な行事があり、そのたびに吹中生の活躍する姿、成長する姿が見られて、校長として嬉しさを感じる機会が多く、吹上中学校を誇りに思いました。

12日(金)から2泊3日で実施した奈良・京都への修学旅行では、各自タブレット端末を持参して2日目の班別行動の際に使用しました。事前に決めたテーマに沿って目的地を訪ねて取材活動をする、それをもとに後輩たちへ旅のプランを提案することをゴールとした学習が展開されました。修学旅行における新しい取組の形に挑戦中です。3年生が新たな歴史の第一歩を踏み出してくれました。



24日(水)には朝会で「人権集会」が、6校時に「生徒総会」が開催されました。人権集会は各クラスの学級委員が、生徒総会は生徒会執行部と各委員会委員長、各部活動の部長が中心となり、どちらも生徒主催で行われました。準備の段階では各学級で討議が行われ、その中で「人権」について考えたり、より充実した生徒会活動を考えたりする時間が設けられました。当日は、司会進行から発表に臨む態度など、それぞれの立場での自覚と責任をもった姿が見られ、吹中生の頼もしさを感じました。人権集会で発表された各学級の人権標語は生徒用昇降口に掲示しますので、来校の際にはぜひ御覧ください。

27日(土)は吹中三大行事の一つ第76回体育祭が行われました。今年は来場を制限することなく、多くの保護者、地域の方々に御参観いただきました。ありがとうございました。生徒たちも、それまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、選手宣誓の中の「競技に心を燃やせ、見ている人の心を掴め、吹中生全員の心に残せ、日本一熱い体育祭」の言葉どおり、熱さと感動のある体育祭をやり遂げてくれました。競技、応援、係の仕事等、3年生を中心に生徒たち自らの手で体育祭を作り上げる姿勢を見て、吹中生の底力も感じる体育祭でした。当日は、PTAの方々にも多大なるご協力をいただき、運営面でお世話になりました。ありがとうございました。



このように吹中生は教室の中でも外でも、そして校外でも様々な学びの場面で自ら活動し、知識だけでなく心や精神的な面でも成長しています。これらの行事などで培う能力を「非認知能力」といい、「目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力」といった、測定できない個人の特性による能力」とされています。例えば、「やり抜く力」「目標に向かって頑張る力」「自制・自律性」「コミュニケーション能力」「共感力」「協働力」「レジリエンス(逆境に勝つ力)」などが挙げられ、点数で測ることが難しいものです。集団での行動の中での困難や失敗、挫折などの経験を通して養われるものが多く、前述した各学校行事はまさにこれらの力を身に付けるのに必要不可欠な機会です。さらに、「非認知能力」の向上が認知能力(学力など)の伸びを促進するともいわれています。学校行事や生徒会活動、部活動に全力で取り組み、生徒自らの手で中学校生活を盛り上げるところが本校の強みの1つです。

今後も学校教育目標として掲げた「自らの力で未来を拓く生徒の育成」のもと、全教職員で生徒たちの自主的な活動となる舞台を用意し、吹中生の「非認知能力」も育みます。吹中生の成長には、保護者の皆様、地域の方々のご支援、ご協力が欠かせません。引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力をお願いします。